

高崎北高校図書委員会

本のむし

令和5年度12月号 2023年12月13日発行
推薦図書特集3

寒い冬こそ暖かい所で本を読みませんか。

今月の1冊

新着図書案内

12月

『神と黒蟹島』
糸山秋子・著

☆冬季特別貸出について☆
12月11日(月)～26日(火)
上限冊数:10冊、
貸出期限:1月9日(火)までの貸し出しができます。
「気になる作家やシリーズをまとめて読みたい!」をぜひこの機会に…。

☆冬季休業中の開館日
12月25日(月)、26日(火) 9:00～15:50

☆貸出中の本を整理しましょう

図書館から借りて、読み終えている本や貸出期限の過ぎた本は、速やかに返却してください。引き続き借りたい場合はカウンターで延長手続きを行いましょ。また督促状が届いた3年生は冬季休業に入る前に忘れずに返却してください。詳しくは図書館までお問い合わせください。

書名	著者名	出版社	請求記号
学びの技 改訂版	登本洋子ほか	玉川大学出版部	002
クイズ語辞典	近藤仁美	誠文堂新光社	031
超有名な哲学書50冊を100文字くらいで読む。	小川仁志	イースト・プレス	102
ココロの友だちにきいてみる	細川貂貂	笠間書院	159
光武帝 世界史リブレット人	小嶋茂稔	山川出版社	209
家康の誤算 PHP新書	磯田道史	PHP研究所	210.5
関東大震災と民衆犯罪 筑摩選書	佐藤冬樹	筑摩書房	210.6
今がわかる世界がわかる 世界地図 2024年版	成美堂出版編集部	成美堂出版	290
首都圏城跡ハイキング	清水克悦	メイツユニバーサルコンテンツ	291
中高生からの法と学校・社会	小貫 篤ほか	清水書院	321
世界一流エンジニアの思考法	牛尾剛	文藝春秋	336
「国境なき医師団」の僕が世界一過酷な場所で見つけた命の次に大事なこと	村田慎二郎	サンマーク出版	369
マンガと図鑑でおもしろい! わかるノーベル賞の本身のまわりのありとあらゆるものを化学式で書いてみた	うえたに夫婦	大和書房	377
暗い夜空のパラドックスから宇宙を見る 岩波科学ライブラリー	山口悟	ベレ出版	430
遺伝と平等	谷口義明	岩波書店	443
ヒトの体はこんなにすごい! 人体の取扱説明書	キャスリン・ベイジ・ハーデン	新潮社	467
しんどい時の自分の守り方	ニュートン編集部	ニュートンプレス	491
日本お菓子クロニクル	増田史	ナツメ社	498
昭和の家事	懐かし大全編集部	辰巳出版	588
冒険食堂 ヤマケイ新書	小泉和子	河出書房新社	590
食料危機の未来年表 朝日新書	阪口克	山と溪谷社	596
スマホアプリはなぜ無料? 10代からのマーケティング入門	高橋五郎	朝日新聞出版	611
色の秘めたる歴史-75色の物語	松本健太郎	河出書房新社	675
世にもあまいなことばの秘密 ちくまプリマ-新書	カシア・セントクレア	バイインターナショナル	757
ぼっち現代文	川添愛	筑摩書房	810
青椒肉絲の絲、麻婆豆腐の麻-中国語の口福	小池陽慈	河出書房新社	817
物語、英語で読んでみない?	新井一二三	筑摩書房	820
ツミデミック	佐藤和哉	岩波書店	837
神と黒蟹島	一穂ミチ	光文社	913.6
君にささやかな奇蹟を 角川文庫	糸山秋子	文藝春秋	913.6
となりのナースエイド 角川文庫	宇山佳佑	KADOKAWA	913.6
100年のレシピ	知念実希人	KADOKAWA	913.6
ある閉ざされた雪の山荘で 講談社文庫	友井羊	双葉社	913.6
君たちはどう生きるか 上 ジブリ作品フィルムコミック	東野圭吾	講談社	913.6
	宮崎駿	徳間書店	E726



『今夜、世界からこの恋が消えても』
一条岬・著（メディアワークス文庫）

私が今回紹介する本は一条岬さんの『今夜、世界からこの恋が消えても』という本です。主人公の神谷透はクラスメイトに流されるまま、日野真織に嘘の告白をします。そして真織は「お互い絶対に好きにならないこと」という条件付きで告白を受け入れます。真織は、一度眠ると1日にあったことを忘れてしまう前向き健忘という病気を患っていました。嘘から始まった恋が偽りの恋だと言えなくなってきた時、透のある秘密が2人の関係に影響を与えます。透と真織のお互いを思う気持ちが表れているラストにみなさん感動すること間違いなしです。当たり前のことが当たり前に行えることのありがたみを改めて実感できる、すばらしい作品なので、多くの方に手に取って読んでほしいと思います。既に映画化もされている作品なので「小説を読むのはちょっと苦手だな…」とか「ハードルが高いな…」と思っている人は映画を見ていただくのもおすすめです。



『medium メディウム』 相沢沙呼・著（講談社）

私は『medium』というミステリー小説をおすすめします。この話は推理作家の香月史郎と霊媒師の女性、城塚翡翠との出会いから始まり、2人で数々の難事件を解決していきます。そんな中、巷を騒がせる連続殺人鬼の手が翡翠に迫ってきます。「全てが伏線」といわれるこの作品は本当に伏線だらけで、最後まで読むと感じたことのない感覚に包まれます。最後まで読まないといけない大どんでん返し。ぜひ読んで体感してみてください。

『歩道橋シネマ』 恩田陸・著（新潮文庫）

私が推薦するのは、恩田陸さんの『歩道橋シネマ』という本です。18編の短編集で、話の長さやジャンルもさまざまです。その中で私が面白いと思ったのは、12話目の「楽譜を売る男」です。主人公は雑誌の記者で、あるコンサートホールで開かれている弦楽器のイベント取材していました。取材が終わり、ロビーで編集者を待っているときに、入り口から少し離れた場所にあるスペースで、楽譜を売っているらしい、外国人男性を見かけます。ですがその人はただ並べた楽譜の後ろに座っているだけで、特別なことはしていません。主人公はそれを不思議に思い、彼がどんなことを思いながら座っているのか考え始めます。話の最後で主人公とコンサートホールのスタッフがその男性について会話するのですが、男性が何をしていたかが明らかになり、主人公も読者もとても驚かされます。この他にも驚くような作品や心を動かされる作品があります。ぜひ読んでみてください。